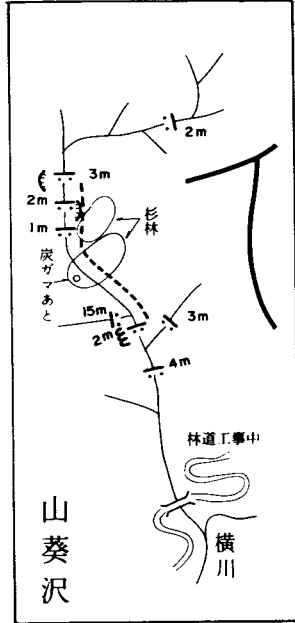


沢に入ったとたんにアブの襲撃。数十匹のアブが群がってきて、服の上からでも平気で血を吸いにかかると、ようやく静かになった。

平凡な沢である。四丁の滝が出てきた時には、これならと期待させたのだが、あとが続かない。ダラダラ



と登り、いつのまにか源頭の湿原についていた。(記)

「タイム」 出合(八二五) ↓ 終了(九二五)

上

一九八五年九月二四日

菱川

一三号国道より分かれて、菱川ぞいの林道に車を乗りいれる。左に林道が分かれる所にデボ。この沢は、

道路と並行している沢なので、最初から期待はなし。もくもくと歩くのみである。それでも、一ノ二丁の小

滝がポツリポツリと出てくる。

沢に入って二〇分、道路が二俣になる。左に行くと、大平部落への道路となる。この先すぐに治山ダムがある。治山ダムとしては、長い堰堤である。すぐ脇で、釣糸をたらしめている人がいた。

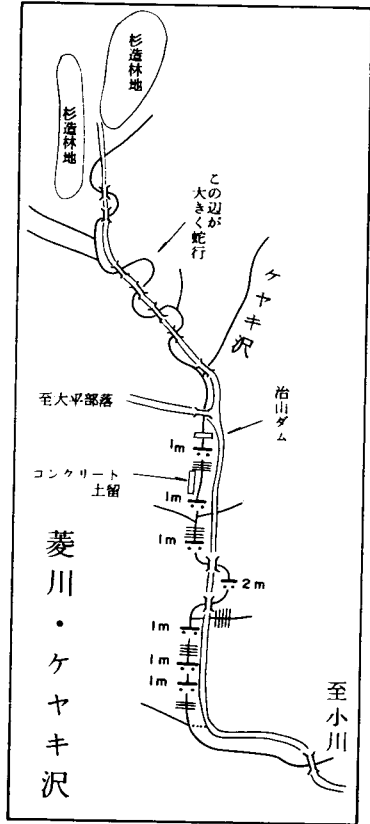
まもなく沢は二俣となる。右がケヤキ沢、左が菱川本流である。いったんケヤキ沢の調査に入り、戻ってからまた菱川本流の遡行を続ける。橋が多く、左にいたり右にいたり。記録が大変である。終了地点は、スギの造林地で、丘陵という感じであった。(記)

「タイム」 遡行開始(二三二五五) ↓

ケヤキ沢橋(二四二〇) ↓ ケヤキ

沢橋(二四二五五) ↓ 菱川終了(二五二〇)

五二〇



ケヤキ沢

上

一九八五年九月一日

入谷前は、菱川右俣・左俣として調査対象としていたのだが、沢にかかる橋に「ケヤキ沢橋」という橋歴板があったので、菱川右俣はケヤキ沢とよばれていることを知る。ケヤキ沢を行ってみる。行けども

行けどもヤブ沢。なにもない。沢の流れも細くなった所で引き返し、再度菱川の遊行にかかる。

(記)

「タイム」ケヤキ沢出合(一四二二〇)

↓終了(一四四〇〇)

山で出会った動物たち②

ニホンザル

地元の人の話では、摺上川流域に三群三百頭くらいが生息しているというが、実際にはもつと少ないと思う。▼群れを成して移動し、人家のすぐそばにまで出沒する。本書で取り上げた摺上川流域ほぼ全域を行動圏としているようだ。▼最近、全国各地で農産物の被害が問題となっていて、摺上川流域でもクワや果樹などの被害が多発している。私も桑畑の被害調査を実施したことがあるが、冬芽を一粒ずつ摘んで食べているかと思えば、樹皮を見事といつてよいほどきれいにむいて食べていた。